

子宮頸がんワクチンについて

看護師 岸 ひろみ

子宮頸がんとは、子宮の入り口にできるがんで、女性なら誰でもかかる可能性のある病気です。若い世代に多いがんで、20代から30代の女性に急増しています。このがんは、ヒト・パピローマウイルス（HPV）というウイルス感染が原因といわれており、主に性交渉で感染します。初期の段階ではほとんど症状がなく、不正出血やおりものの増加、性交のときの出血など自覚症状がある場合には、がんがかなり進行していることがあります。がんが進むと、手術で子宮を全部取らなければいけないこともあり、その場合は妊娠・出産はできなくなってしまいます。

ヒト・パピローマウイルス（HPV）とは

多くの女性が一生のうち一度は感染するごくありふれたウイルスです。100種類以上の型があるHPVの中でも、15種類程度ががんを引き起こす可能性があるといわれています。その中の16型と18型の2種類は、子宮頸がんの原因の約65%を占めています。

子宮頸がんの予防は、HPVに感染している可能性が低い低年齢でのワクチン接種がより有効であるといわれています。大切なお子様の未来を守るために、子宮頸がんの予防について考えてあげましょう。

子宮頸がんワクチンには2種類あります。

*サーバリックス

子宮頸がんの原因になるHPVの16型と18型の2つの型に対して感染予防効果があります。

*ガーダシル

子宮頸がんの原因になるHPVの16型と18型に加えて、尖圭コンジローマ^{せんけい}*の原因となる6型、11型の4つの型に対して感染予防効果があります。

- どちらのワクチンも十分な予防効果を得るためには、必ず3回ワクチンの接種を受けることが大切です。

注意：両方のワクチンを受けることはできません。また、途中で変更することもできませんので、分からないことがあれば、いつでもご相談下さい。

HPVの16型と18型による子宮頸がんは、ワクチンの接種によってほぼ100%予防することができます。しかし、これら2つのHPV以外にも子宮頸がんの原因になるウイルスがありますので、早期発見のために20歳を過ぎたら定期的に子宮がん検診を受けましょう。

*尖圭コンジローマ^{せんけい}とは、良性のイボが性器や肛門のまわりにできる病気で、性病のひとつです。再発しやすく完治は難しいといわれています。

